

太陽の蓋



北村有起哉 袴田吉彦 中村ゆり 郭智博 大西信満 / 神尾佑 青山草太 菅原大吉

三田村邦彦

菅田俊 井之上隆志 宮地雅子 葉葉葉 阿南健治 伊吹剛

■製作 橘民義 ■プロデューサー 大塚馨 ■音楽 ミッキー吉野 ■脚本 長谷川隆 ■アソシエイトプロデューサー 大野拓夫 ■ラインプロデューサー 加藤賢治 ■撮影 小宮由紀夫 ■美術 及川一 ■照明 林大樹 ■録音 良井真一 ■整音 小宮元 ■編集 小林由加子 ■VFXプロデューサー 平興史 ■装飾 太田哲 ■衣裳 高橋英治 ■ヘアメイク 金森恵 ■スクリプター 黒河内美佳 ■助監督 廣田啓 ■制作担当 高見明夫 ■監督 佐藤太

制作プロダクション:アイコニック 製作:「太陽の蓋」プロジェクト

配給・宣伝:太秦 宣伝協力:ケイ・アイ・エス

【130分/ カラー作品 / DCP / Vista Size / surrounds】

©「太陽の蓋」プロジェクト/ Tachibana Tamiyoshi

taiyounofuta.com

7月16日(土)より渋谷ユーロスペースより全国順次公開

【イントロダクション】

「史上最悪の危機」を迎えたあの日、官邸内で何が起きていたのか。当時の官僚たちが実名で登場する真実のジャーナリスティック・エンターテインメント

福島原発事故から 5 年。関係者による著書、様々な報道番組やドキュメンタリー、調書の公開など…当時の状況が解明されたかのように見えてつとも、人々の記憶は早くも風化され真相が明らかにされることなく原発事故問題の幕が引かれようとしている。

本作品では数多くの報告書や資料を分析し、事故対応当事者であった政治家や閣僚、被災地である福島での直接取材を敢行。あの日から 5 年という年月が経った今だからこそ明らかにする、「事実とは何なのか？」を軸とし「あの日の真実」をセンセーショナルにあぶり出す。

東日本大震災～福島原発事故が起きた 3 月 11 日からの 5 日間。原発事故の真相を追う新聞記者をキーパーソンとし、当時菅直人政権であった官邸内、さらに東京や福島で暮らす市井の人々の姿などを多角的な視点から捉えている。実相に迫る究極のポリティカルドラマだ。

官邸内の事件(ノンフィクション)をベースにしながら官邸外の人々のドラマ(フィクション)を対比させたオムニバス形式の構成で、ノンフィクション部分は関係者の著書や調書はもちろん当時事故を報道した現役記者、また元首相の菅直人氏はじめ、当時の政権閣僚に直接インタビューを敢行し脚本を制作。官邸、東電本社、福島第一原発の混乱や苦悩を描くと共に報道の在り方についても一考を投じる。菅内閣の政治家は全て実名で登場させ、原発事故の経過や対応を事実に沿って丹念に追う。情報が錯そうする中、極限の緊張状態にあった者たちのドラマを描き、官邸内部のリアルな様子を浮かび上がらせる。フィクション部分では東京の夫婦と被災した福島の家族を対比させ様々な立場から原発の是非を問いかける。原発と共に生きて来た福島の人々の葛藤、事故発生によって翻弄されるマスコミや東京に暮らす人々を切り取ることで原発と日本人の姿を俯瞰的に捉えている。

個性あふれるキャスト陣には、情報収集に奔走する記者・鍋島役に数々の映画・ドラマ・舞台で活躍し日本映画界では欠かせない存在の北村有起哉。父は名優の故・北村和夫、舞台「CLEANSKINS/きれいな肌」で読売演劇大賞優秀男優賞受賞、最近では NHK 木曜時代劇「ちかえもん」での演技が話題となった実力派俳優の満を持しての初主演作となる。記者役は TBS 系ドラマ「運命の人」(12)以来4年ぶり。菅直人役はベテラン俳優三田村邦彦が務め作品に重厚感をもたらしている。東京に暮らす鍋島の妻・麻奈美役を『パッチギ！ LOVE&PEACE』で 2007 年度全国映連賞女優賞に輝き、『そして父になる』の好演も記憶に新しい中村ゆりが演じ、当時すべての母親がそうだったように情報量の少ない中で幼い子どもを守ろうとする様を体現している。使命感から福島第一原発内で作業をする地元の青年・修一に岩井俊二作品常連で、新作『リップヴァンウィンクルの花嫁』出演の郭智博。さらに官僚たちには内閣官房長官・枝野幸男役に菅原大吉、内閣副官房長官・福山哲郎役に神尾佑、首相補佐官・寺田学役に青山草太がそれぞれ扮しているのも見どころとなっている。

【ストーリー】

あの日、日本は消滅の危機に瀕していた。

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分。東日本大震災発生、福島第一原発では、全電源喪失の事態に陥った。冷却装置を失った原子炉は、温度が上がり続ける。チェルノブイリに匹敵する、最悪の事態が迫っていたのであった。

巨大な怪物へと変貌を遂げる原発に対して、想定外の状況を前に、判断を誤る科学者たち。情報不足のまま、混乱を極める官邸、そして故郷に別れを告げ避難を急ぐ市民たち。

打つ手のないまま、時は刻々と過ぎ、やがて無情にも地震発生から翌日の 3 月 12 日午後 3 時 36 分、1号機の原子炉建屋が水素爆発したのであった。続けて3号機で、2号機で、連鎖するように起こる異変。破滅に向けてのカウントダウンは、止まることを知らなかった……。

あの日、私たち日本人が、メディアを通して目撃したことは真実だったのか？

なぜ日本人は、原発に対して、あれほど無力だったのか？

閉ざされていた全てが、いま明らかになる——。

キャストプロフィール

【記者クラブ】

■北村有起哉／東京中央新聞記者・鍋島

1974 年 4 月 29 日生まれ、東京都出身。1998 年に舞台『春のめざめ』と映画『カンゾー先生』でデビュー。その後、舞台と映像の両面で活躍する。劇団☆新感線『メタルマクベス』(06)、原田真人監督『駆込み女と駆出し男』(15)など、主役・脇役、ジャンル、キャラクター、劇場のキャパシティ、時代性などの境界線に一切とらわれない表現力でその振幅の大きさを縦横無尽に体現している。さらに『トッカン 特別国税徴収官』(12/CX)、『ちかえもん』(16/NHK)など、TV ドラマでもその独特な存在感を表している。「CLEANSKINS/きれいな肌」で読売演劇大賞優秀男優賞ほかを受賞。

■大西信満／毎国新聞記者・山中

1975 年 8 月 22 日生まれ、神奈川県出身。2003 年、『赤目四十八瀧心中未遂』で映画デビューし、初出演ながら主役を務める。その演技は高く評価され、2003 年度毎日映画コンクール・スポニチグランプリ新人賞、2003 年度日本映画批評家大賞・新人賞を受賞した。映画出演作は、『キャタピラー』(10)、『劇場版 神聖かまってちゃん／ロックンロールは鳴り止まないっ』(11)、『BUNGO～ささやかな欲望～ 見つめられる淑女たち』(12)、『祖谷物語—おくのひと—』(12)、『さよなら溪谷』(13)など。

【東京】

■中村ゆり／鍋島の妻・麻奈美

2007 年『パッチギ！ LOVE&PEACE』のヒロインを演じて注目を集め、数々の映画賞を受賞。最近の主な出演作品に、映画『はやぶさ 遥かなる帰還』(12)、『黄金を抱いて翔べ』(12)、『百年の時計』(13)、『そして父になる』(13)、『ディアーディアー』(15)。ドラマ『最も遠い銀河』(13)、『花子とアン』(14)、『硝子の葦』(15)、『探偵の探偵』(15)、『煙霞』(15)、『コウノドリ』(15)。舞台に『国語の時間』(13)、『焼肉ドラゴン』(16)など。

【福島】

■郭 智博／修一

1984 年 9 月 5 日生まれ、東京都出身。1998 年、ドラマ「聖者の行進」(TBS 系)でデビュー。『リリィ・シュシュのすべて』(01)、『花とアリス』(04)などで注目を集める。その他出演作に映画『君の好きなうた』(11)、『家族 X』(11)、『HOME SICK』(13)、『南風』(14)など。2016 年公開作に『リップヴァンウィンクルの花嫁』がある。

【官邸】

■三田村邦彦／内閣総理大臣・菅直人

1953 年 10 月 22 日生まれ、新潟県新発田市出身。劇団青俳養成所を経て劇団青俳に所属。デビュー作は 1979 年の映画『限りなく透明に近いブルー』。その後「必殺シリーズ」(ABC テレビ)に飾り職人の秀役で出演して人気を博し、「太陽にほえろ!」(NTV)にはジプシー刑事役で出演した。以降クールな役どころ、コミカルな役どころ、持ち味である繊細さ・甘さを活かした役どころで幅広く活躍。

■菅原 大吉／内閣官房長官・枝野幸男

1960 年 4 月 14 日生まれ、宮城県出身。舞台「星屑の町」シリーズ(94 年～16 年)はじめ水谷龍二、作・演出舞台に多数出演。最近の主な出演作品に、映画『臨場 劇場版』(12)、『WOOD JOB!』(14)、『劇場版 S-最後の警官-』(15)、『の・ようなもの のようなもの』(16)。ドラマ『あまちゃん』(13)、『東京スカーレット』(14)、『HEAT』(15)など。シリアスドラマからコメディまで、映画、TV、舞台に欠かせない俳優である。

■神尾 佑／内閣副官房長官・福山哲郎

1970 年 3 月 16 日生まれ、福島県出身。1997 年、俳優デビュー。以来、映画、TV、CM、舞台と幅広く活躍中。最近の映画は『星籠の海』『劇場版ウルトラマン X』、TV は「精霊の守り人」(NHK)「きんぴか」(WOWOW)「TEAM～警視庁特別犯罪捜査本部」(EX)、舞台は北区つかこうへい劇団解散公演「初級革命講座飛龍伝 80'」、つかこうへい三回忌特別公演「新・幕末純情伝」(12)、「飛龍伝 21 ～殺戮の秋～」(13)など。

■青山草太／首相補佐官・寺田学

1979 年 9 月 17 日生まれ、島根県出身。モデルとしてデビューしたのち、2003 年に俳優へ転向。舞台やドラマのレギュラー出演を経て、2005 年「ウルトラマンマックス」の主人公トウマ・カイト役に異例の監督指名で抜擢され出演し人気を博す。その他、映画『DEATH NOTE』(06)に出演するなど幅広く活躍中。

■袴田 吉彦／官房副長官秘書官・坂下

1973年7月16日生まれ、静岡県出身。1991年、第4回ジュノン・スーパーボーイ・コンテストでグランプリを受賞し、翌年、映画『二十才の微熱』で主役に抜擢されデビュー。映画『ダイナソー』(00)『猫の恩返し』(02)などでは、声優としても才能を発揮。近年の出演作は『呪怨-ザ・ファイナル-』(15)、2016年公開作に『嫌な女』『風の色』など。

スタッフプロフィール

■製作:橘民義

1951年2月4日、岡山県出身。早稲田大学理工学部卒、岡山県議会議員3期12年、ポルトウウイン・ピットクルーHD(株)代表取締役会長、(社)自然エネルギー研究会代表

【ステートメント】

地震国にいっぱい原発を造った人たちがいる。その人たちはそれを安全だと言い続けた。その人たちは、これほど大きな事故が起きても、子供たちが甲状腺ガンになって苦しい思いをしても、ふるさとに帰れない人が10万人以上いても、それでもなお反省の色もなく原発を再稼働しようとしている。そしてもう一つ見逃せないのは、その人たちは事故の責任を自分たちではなく、他のある一点に押しつけようと画策した。私がこの映画を作りたいと思ったのは、事故以来今日まで大きく歪曲して伝えられた事実を正確に 伝え直したいと思ったことに他はない。改めて検証した資料は、現場に一番近いところから選んだ。その場においてモンスター(原発)と闘った人が書いた文献、虚偽の発言が許されない国会事故調査委員会の記録、どうしても事実を隠す事が出来ない東京電力に残されたビデオ、そして直接取材して得られた多くの人々の生の声などだ。

ここから発見された新しい事実は今まで日本のメディアが伝えてきたものと大きく違う。これら真実に一番近い情報を 元にドラマとして構築した。この映画は世界の隅々まで広めたい。真の物語として100年先200年先まで残したい。

■脚本:長谷川隆

1962年兵庫県神戸市出身。

- ・香港パラダイス(1990年)監督:金子修介
- ・GTO(1999年)監督:鈴木雅之
- ・真夜中まで(2001年)監督:和田誠
- ・陽気なギャングが地球を回す(2006年)監督:前田哲
- ・猿ロックTHE MOVIE(2010年)監督:前田哲
- ・クローズEXPLODE(2014年)監督:豊田晃利

■プロデューサー:大塚馨

1968年東京出身

- ・2001年「Departure」監督:中川陽介
サンダンス映画祭最優秀脚本賞 ベルリン映画祭正式招待作品。
- ・2005年「真昼ノ星空」監督:中川陽介
ベルリン映画祭正式招待作品。ドイツ映画連盟特別賞受賞。
- ・2010年「心中天使」監督:一尾直樹

・2012年「リトル・マエストラ」監督: 雑賀俊郎
・2014年ドキュメンタリー映画「無知の知」監督: 石田朝也 出演: 菅直人、福山哲朗、班目春樹
ほか。共同・平和ジャーナリスト基金・奨励賞受賞。

■音楽: ミッキー吉野

1951年神奈川県横浜市出身。
1968年ゴールデンカップス加入
長い髪の少女等のヒットを出す。
1971年バークリー音楽大学入学
1974年バークリー音楽大学卒業
1976年リーダーとしてゴダイゴ結成
「ガンダーラ」、「モンキーマジック」、「ビューティフルネーム」、「銀河鉄道999」のヒットを出す。
2004年参加。矢口史靖監督映画『スウィング・ガールズ』で第28回日本アカデミー賞最優秀音楽賞を受賞。
その他、数々の映画音楽を手掛ける。
2016年今年ゴダイゴ40周年を迎え、コンサートも多数予定している。

■監督: 佐藤太

1968年3月19日生まれ、宮城県仙台市出身。学生時代に撮った数々の自主映画で注目されプロの世界に。1995年に発表した短編映画『デートトレイン』で注目を集める。以降、テレビドラマ、ドキュメンタリー、ミュージックビデオ、CM等で活躍。2005年に公開された『インディアン・サマー』で長編劇映画デビュー。

- ・ギャルバサラ -戦国時代は圏外です- (2011年)
- ・ウルトラマンマックス (2005年 - 2006年、CBC)
- ・マジすか学園 (2010～2012年テレビ東京)

プロダクションノート

あの日、私はどこにいて何をしていたのか。

2011. 3. 11. 多くの人々が当時の記憶を鮮明に思い出すことが出来るのではないだろうか。あの時、誰もが情報を求めて奔走していた。一体何が起っているのか、どこに行くべきなのか、そして何をすべきなのかと。マスコミ、被災者をはじめとする国民、そして日本の中枢である政府官邸でさえも。5年経った今、様々な立場や役割の中で多くの人々がこの終わりのなき問いを続けている。このどうしようもなくやるせない現実を映画にすべきなのではないか…。これが本作のはじまりであった。そしてそれは大きな葛藤と苦難のはじまりでもあった。

政治家へのインタビュー。

まず私は震災当時、内閣官房副長官であった福山哲郎氏に面会を求める事にした。事故当時から経過詳細を書き留めていた「福山ノート」と呼ばれる記録は、後に原発事故対応を検証するにあたって非常に重要な役割となったことから、この映画にとってもキーマンになるのではないかという直感が働いたからだ。突然の映画製作者の訪問に戸惑いながらも応対してくださった福山氏は、後に「当初映画化は無理だろうと思っていた。」と語った。現役の政治家を実名で描くという前代未聞の試みであること、原発事故も解明の途上であり、また人々の心の傷も生々しい震災をどう描くのか、そして何よりも資金調達の壁。課題は山積だったからである。

脚本の執筆も困難を極めた。

まずは膨大な資料と格闘しなければならなかった。事故調をはじめとする公的な報告書、様々な著作物、当時報道されていたメディア関係の資料、時系列に沿って情報を整理していった。しかし事実を追うだけでは映画にならない。福島の人々の想い、東京に暮らす人から見た震災と事故、官邸内の人間ドラマ・・・どのようなストーリーを構築すべきなのか。政治家、マスコミ関係者、市井の人々、様々な人達にインタビューを実施し、監督、脚本家とのミーティングを重ね、納得いく形になる頃には既に1年が過ぎようとしていた。

2015年10月いよいよクランクイン。

企画立案から数年を経て、ようやくここまで辿り着いた・・・という万感の想いと同時に、まだここからが本当のスタートだという複雑な気持ちが入り混じるなか迎えた撮影初日。北村有起哉氏、三田村邦彦氏といった実力派の俳優陣やスタッフにも恵まれ、福島をはじめとする関東近郊での撮影は順調に進んでいった。危機管理センターや被災地など緊迫したシーンでは多くのエキストラの方々がご協力くださり、また音楽ではミッキー吉野氏が参加してくださるなど作品に一層の厚みを与えてくださった事にこの場を借りて感謝したい。

震災□ 原発事故は終わっていない-という現実。

本作で描けたのは震災や原発事故のほんの一片かも知れない。あれから5年、これからも新たな事実が次々と明らかにされていくだろう。しかしながら人々の記憶は薄れ、問題意

識から遠ざかる一方であることは確かだ。あの時発令された「原子力緊急事態宣言」は今だ解除されていない。首の皮一枚でかろうじて難を逃れた東日本。その危機的状況が現在も続いているという認識をどれほどの人が持ち続けているだろうか…。これは本作に関わった全てのスタッフが自分自身に問いかけた疑問でもあった。この作品はまだ序章にすぎない。これからも我々は考え続けなくてはならない。そしていつの日か新たな一步を踏み出すため、明瞭な解を得ることを願ってやまないのである。

プロデューサー大塚馨

【クレジット】

北村有起哉 袴田吉彦 中村ゆり 郭智博 大西信満 / 神尾佑 青山草太 菅原大吉 三田村邦彦

菅田俊 井之上隆志 宮地雅子 菜葉菜 阿南健治 伊吹剛

■製作 橘民義 ■プロデューサー 大塚馨 ■音楽 ミッキー吉野 ■脚本 長谷川隆
■アソシエイトプロデューサー 大野拓夫 ■ラインプロデューサー 加藤賢治 ■撮影 小宮由紀夫
■美術 及川一 ■照明 林大樹 ■録音 良井真一 ■整音 小宮元 ■編集 小林由加子 ■VFXプロデューサー 平興史 ■装飾 太田哲 ■衣裳 高橋英治 ■ヘアメイク 金森恵 ■スクリプター 黒河内美佳 ■助監督 廣田啓 ■制作担当 高見明夫
■監督 佐藤太

制作プロダクション:アイコニック 製作:「太陽の蓋」プロジェクト

配給・宣伝:太秦 宣伝協力:ケイ・アイ・エス

【130 分/ カラー作品 / DCP / Vista Size / surrounds】

c「太陽の蓋」プロジェクト/ Tachibana Tamiyoshi www.taiyounofuta.com

【公開表記】

7 月 16 日(土)より渋谷ユーロスペースより全国順次公開

【お問合せ】

太秦株式会社 配給:小林 宣伝:斎藤

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-16-10 代々木エアハイツ 301

TEL:03-5367-6073 FAX:03-6903-6970 MAIL:info@uzumasa-film.com